



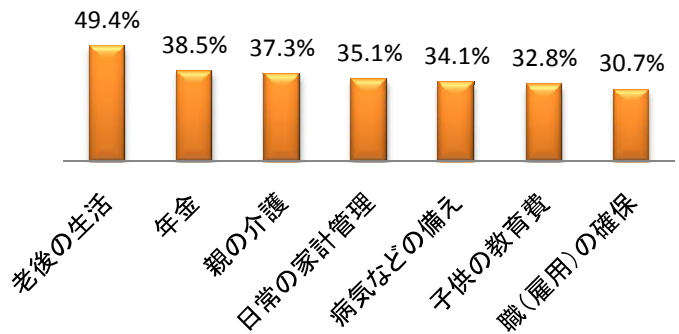
日々、皆さまからFPとして家計の将来設計や生命保険などの相談を受けており、ご相談を通じて学んだこと、気づいたこと、感じたことがいくつもあります。その中から、皆様の家計の参考になりそうな選りすぐりの何点かを『ひろえFP通信』として作成をしておりますので、是非ご覧ください。

## 働きざかり(30代・40代)のライフプランニング意識調査

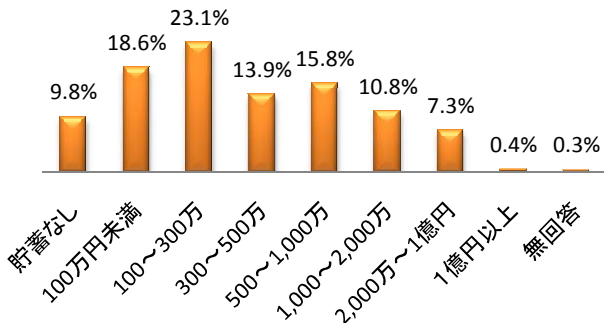
お客様から「他の方はどうですか?」と聞かれることが多々ありますので、2010年4月に発表された調査結果から、30代・40代の方が現在、あるいはこれからの将来で考えておこうと思っていることや現時点での貯蓄状況などについて、ご紹介をしたいと思います。

右のグラフは、現在・将来の心配ごとについての主なものです。ほぼ半数の人が老後の生活について、心配をしているようです。私もライフプラン作成のご依頼をいただいた際は、定年を迎えてから、年金を受給するまで(65歳)の期間について再雇用が可能かどうかなど、かなり意識をしています。

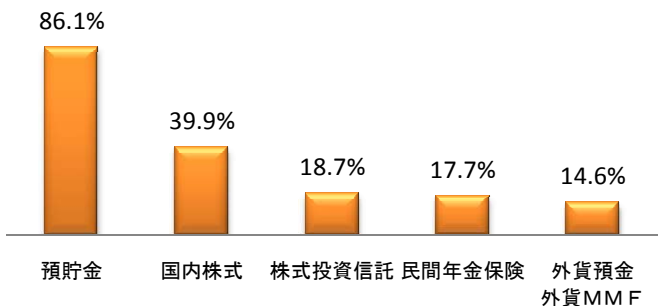
### 現在・将来の心配ごと(上位7項目)



### 保有金融資産残高



### 保有資産内訳(上位5種)



上記のグラフは、貯蓄に関してです。300万円未満の方で、半数を超え、中央値は250万円でした。しかし、45.8%の人が持ち家で、住宅購入時に頭金を出した後の人も多数含まれている点にはご注意ください。また、資産の内訳は預貯金という方が圧倒的です。複数回答可での調査であるため、正確な数値はわかりませんが、株式や投資信託、外貨などで積極的に投資・運用されている方は半数以下の方です。

## 2010年夏のサマーキャンペーン開催中♪

ひろえFP事務所では、『2010年夏のサマーキャンペーン』を2010年8月末まで開催中です。開催期間中に限り、“家計の将来設計(ライフプラン作成)サービス”を下記の特別価格でご提供!

【通常価格】 **30,000円** ⇒ **15,000円**  
 【キャンペーン特別価格】

ライフプランを作成することで、家計の将来に見通しを持ち、安心した暮らしが実現できます。この機会に、家計の将来について共に考えてみませんか。



## 学資保険って、いくらぐらい入っておけばいいの？

お子様がいらっしゃる方の多くは、学資保険か、それに準ずる積み立てをされていると思います。学資保険より、万一時の保障額が高くなる終身保険での積み立てをされている方も多くいらっしゃいますが、どれぐらいの額を教育資金として準備するかは、ライフプランを作成し、家計分析をしてみないとわかりません。しかし、ライフプランは特に立てず、保険のみのご相談をいただくお客様もいらっしゃり、そういう方から「教育費はいくらぐらい積み立てておけばいいの」と聞かれた際に、いつもお話していることを少しご紹介します。

### 《 STEP 1 “必要となる教育費の合計を考える” 》

教育費の拠出として、家計に大きな影響を及ぼすのが、高校卒業後の期間(大学など)です。その期間で、総額いくらの方が費用が必要なのかを考えるとところから始めましょう。4年生の大学か、短期大学か、専門学校か、あるいは公立か、私立か、さらには自宅通学か、下宿かなどで必要となる教育費の総額は異なります。以下は、各種統計をもとにひろえFP事務所が試算した数値です。

大学						私立短大	
国公立		私立文系		私立理系		自宅	下宿
自宅	下宿	自宅	下宿	自宅	下宿		
472.4	789.2	704.4	1060.8	800.4	1156.8	407.0	615.3

(単位:万円)



### 《 STEP 2 “ご両親とお子様、兄弟姉妹の年齢を考える” 》

次に、一番重要となることですが、お子様が19歳の時のご両親(収入の主となる方)のご年齢です。お子様が19歳の時に、ご両親が60歳を超えているようだと、上記の全額を準備しておく必要がありますが、そうでなければ、その時の収入から拠出できる額を差し引いた額を準備しておけばよいと考えられます。しかし、ご兄弟の年齢差が少ない場合は、家計から教育費に拠出できる額を兄弟の人数で分割する必要があるので、注意が必要です。

上記を踏まえ、お子様は一人で、私立文系に自宅から通うことを想定し、お子様19歳時にご両親が56歳以下で将来の収支見込みから年間100万円は教育費に拠出できるものとして、準備しておくべき教育費を計算すると・・・。

$$\text{教育費総額 } 704.4\text{万円} - \text{家計からその時に拠出できる額 } 400\text{万円} (100\text{万円} \times 4\text{年間}) =$$

**事前に必要な準備額**  
304.4万円

## 個人年金保険

表の意識調査からも分かるように、定年後の生活に不安を持つ人は多く、個人で民間の年金保険に加入される方も増えてきました。民間の個人年金保険には大きく分けて、変額個人年金と定額個人年金の2種類ありますが、最近では安全性を重視し、かつ所得税の所得控除が受けられる定額個人年金保険のご相談をいただくことが多いです。その定額個人年金保険の中でも、最低保証があり、積立利率が変動するタイプが人気です。年金保険などについて、詳しく聞きたいという方は、お気軽にお問い合わせください。



## 近況報告

最近、企業様や各種団体の方々から、従業員様等の福利厚生目的で“ライフプランセミナー”の講師ご依頼をいただいています。先日も100名超の方にご参加いただき、ライフプランを考える上でのポイントなどを各種データを用いて、ご説明をさせていただきました。

今後もセミナーを通して、多くの方にライフプランを考えることで、安心して日々の生活を送ってもらえればと思っておりますので、お勤め先やご近所の会合などで、そのようなお話がありましたら、是非、ご用命ください。



## ひろえFP事務所

〒450-0002  
名古屋市 中村区 名駅2-45-19 桑山ビル4階  
〒553-0001  
大阪市 福島区 海老江2-1-31 青山ビル8階  
(有)ライフプランニングサポート内

TEL 052-589-6582  
FAX 052-541-3223  
E-mail j-hiroe@office-hiroe.com  
HP URL <http://www.office-hiroe.com>